

特集 東日本大震災4

形よりも、 本質を めざして

第8回
チア東北サポートを終えて

稲葉寛夫

(チア・につぼん代表)

今年7月23日〜28日に行われたチア東北サポートでは、24名の有志が、恵まれた時を過ごしました。釜石では、私たちが物資サポートに向かった駐車場に、10枚あまりの大漁旗が掲げられ、僕たちを待っていてくれました。それを見た瞬間、涙が出ました。「1年半が経って、何てすごい絆が与えられたのだろう！」

◀ 大漁旗で歓迎してくれた！（釜石・浜町）



▲▼ 泥かきと床はがしが続く(7月25、26日 仙台・宮城野区)



オレンジと、色鮮やかな大漁旗。畳2畳分ぐらいある、大きな旗10枚あまりが、いつも物資を配給する浜町の駐車場の上にロープが回され、所狭しとつり下げられていました。鯉のぼりか、運動会の万国旗か、映画の「黄色いハンカチ」みたいに、青空の下、風に大きくなびているのです。いつもの会場に近づいたバスの中で、皆で祈り、顔を上げると、窓からそれが見えて、「うわー!」と思います、「す

今回が最後になるかもしれません。私たちのチア・マガジンを、今回、初めて持つてきました。皆さんとの出会い、私たちや聖書のこと、ボランティアの背景のことを書いてます」と紹介し、置きました。ほとんどの皆さんが喜んで持つていつてくれ……というか、「私も欲しいです」ともらいに来て下さり、びっくりしました。

大漁旗とお煮しめと 虹の架け橋と

釜石で、私たちの歓迎に掲げられた、青、赤、黄、

「ごい歓迎だ!!」と分かって、涙が出てきました。後で聞くと、被災者の皆さんは、私たちを迎えるために、駐車場の草刈りをし、また、お煮しめやおにぎりを握って、ある人は会社を休んで待つていて下さったのだそうです。「駐車場、この前まで草ボウボウだったんだー。でも、チアの人みんなに申し訳ないつて、一生懸命、草、刈ったんだよ」「今日は会社、休んだの。朝早くから、お煮しめ作ったんだよ」と、笑顔。何ということでしょうか。

いつものように、皆にあいさつをし、野菜や果物、生活物資、衣料品等を配りました。私たちも入られて、約80人、わいわい賑わう中で、話が盛り

今回も、大船渡、釜石、陸前高田、仙台市宮城野区、若林区…6日間、物資配布や泥かき・壁はがしにと、まわらせていただきました。それぞれの地で、僕らは、神さまに、そして、被災地の人々に、これほど愛されていたのか…と感動しました。この一年半、感謝なことに、心を開いて下さる「顔見知り」が増えていきました。今回は、さらにその輪を、神さまが広め、深めて下さいました。

「私たち、来させていたたくのが、もしかすると



金石も7度目、親戚の一員
みたいな感じで、会話も一
層、はずむ

上がる場面が多々ありました。「前にも来てくれ
たよね。私、目がほとんど見えないの。でも、声
を聞いて分かったよ。前に、お母さんと来てくれた
でしょ。大きくなつたね」「私たち、手紙、交換
してたの。また、会えた。うれしい」「ご自宅まで
運んでほしいということで、行ってきました。震災
の時の話とかいろいろしてくれて。上がつていきな
さいって言うて、ジュースももらつて」…。

物資の配布には、約60名あまりの皆さんが集まっ
てくれました。津波直後の緊急の状況ではありま
せんが、「将来への様々な不安があるし、もう忘れ
られているだろう…って思いもあるから、とてもう
うれしいし、助かるんです」。そう言うて、感謝して

下さる初老の方がいました。そんな気持ちの方が
多いようです。

配布が段落した後で、駐車場の一角にブルーシー
トを敷き、お花見かハイキングみたいな感じで、準
備して下さったお昼ご飯を食べました。BGMは、
釜石音頭です。食前の祈りということで、イエスさ
まに、浜町の皆さんへの感謝と祝福のお祈りをみん
なでして、お昼ご飯スタート。「すごい、おいしい！」
「このお煮しめ、どう作つたんですか。作り方を教
えて下さい！」。

会場では、別れの風船が約40個、準備されてい
ました。お別れのことばをマジックで書くという企
画。T会長さんの、心のこもった演出です(〜)。





20個ずつ束になった風船が、青空のかなたに飛ばされて間もなく、取材に来ていた地元のTV局のディレクターさんが、「あ、空に虹が架かっているよ！風船の向こうだよ」と教えてくれました。「希望の虹」「神さまからの約束の虹」という感じで、とても感動でした。今回で、「区切りとお伝えして向かいましたが、また、導かれる時に来ますね」ぜ



▲ 風船に希望と祈りを託し、空へ！／風船の行く手に、虹が出て、神さまの喜びと祝福の約束を感じた！(7月24日 釜石 浜町にて)

ひー」と言つて別れました(当時の様子の一部を地元のTV局が10分ほど、レポートしてくれています。チアHPでどうぞ。[www.cheajapan.com])。

最後の漁具店の閉店と土鍋

その後、これまで何度か、訪問しているB漁具

店に寄りました。ご主人を津波で失いながら、「釜石、最後の漁具店」として経営していたBさんです。釜石市内の4軒のうち、3軒は津波で流されてしまいました。でも、その最後の漁具店も閉じられることになったことをニュースで知りました。

昨年6月の第3回チア東北の時、牡鹿半島の漁師さんたちの港の「がれき処理」を手伝いました。行く前に、「今、何が必要ですか」と伺うと、求めてくれた物資の1つが、魚網を切るための特別なナイフでした。東京やインターネットでは見つからず、釜石・浜町のT会長さんに相談して連れて行つてもらったのが、Bさんのお店でした。「ありますよ」と、探し出して、とても喜びました。

奥さんは亡くなったご主人のことを話してくれました。まず、奥さんを避難させ、その後、店のシャッターを下ろしに行つたご主人が流されてしまったいきさつです。「仕方ない。これも定め、あきらめるしかないと思って」と聞き、胸が痛かったです。果物や野菜、そして聖書等を持っていくと、「ただでは絶対に受け取れない」と3000円を差し出されました。背筋がすっとし、びりりと

した女主人の気概を感じて、これは受け取るしかないと思い、3000円を、お気持ちと共にもらって帰ったりしました。

その次に伺った時には、「Bさん」何か、次に行かれるボランティア先（陸前高田）の皆さんに役立つものはないかしら…。あ、これなら役立つと思うから持ってきて」と、津波の爪痕の残るお店から立派な出刃（デバ）包丁を探し出して、持ってきてくれたり……。〔Bさん〕これは、果物や野菜のお礼だから、お金はいいから」。その後も何度か訪ね、「牡鹿半島の漁師さんたちも、陸前高田の皆さんも、すごく喜んでました」と伝えたりもしました。そんなBさん、どこかに行ってしまう前に、もう

一度、会いたいと思つて訪ねたわけです。今回は、店を閉じる…と

を釜の夫迎
閉た、後店く
め、具温か
決石漁人、え



取れない」と言つて、「これ、みんなで食べたりする時に役に立つのでは…」と土鍋を持ってきてくれました。「2セット持ってきて」とおっしゃるもの、あまりにも立派な土鍋なので、「1つでうれしいです。ありがとうございます」といふ、受け取りました。でも、ちよと寂しそうでした。後で考えて、もしかして、店を閉じるということでも処分しなければならず、2つもらった方が喜ばれたのかな…と後悔しました。「写真撮つていいですか」と聞くと、「え、写真撮つて下さるの？」と笑つてくれて、送り先の仮設の住所もくれました。とにかく、Bさんとも心の絆が与えられたみたいで、これもうれしかったです。

具合、あんまり良くないの… 陸前高田・仮設住宅にて



▲ バケツ、野菜、チア・マガジンも人気だった!
(陸前高田)

陸前高田の仮設住宅はCさんがいつも窓口になつてくれてます。Cさん、「具合は、あんまり良くないの」とのこと。そんなCさんへの励ましになれば…と祈りつつ、物資の支援をしました。いつも、服探しを最後まで楽しんでやっているので、とても感謝でした。「バスで飲んで」とCさん、みんなの分のジュースを差し入れてくれました。

野菜しゃぶしゃぶ… 仙台・宮城野区

宮城野区では、サマリタンズ・パースの皆さんからの支援要請を受けて、泥かきや壁ががし、掃除等に向かいました。家主のD夫人は、24人のホームスクーラーたちの働きをとて感動してくれていました。お昼頃、「Dさん家族に祝福がありますように」と祈り終わると、涙を流しておら

▼ 気心も通じ合つて(陸前高田)



れました。ご主人と3家族ほど共同で、レタス等を中心としたハウス野菜の復興農場を起業されたことです。翌日の昼は、そのE復興農場で採れたてのペーパーレタスやチンゲン菜とか持ってきてくれ、野菜しゃぶしゃぶで24人をもてなしてくれました。これも、すごくおいしかったです。



◀◀ 狭い床下は、任せて!(上) / 汗と泥で真っ黒の腕!(長袖シャツではありません)(左)



▲ 大家さんから「野菜しゃぶしゃぶ」の差し入れ、おいしく、うれしい!(復興農場からの採れたて野菜!)

また来てくれたら
うれしいな!...仙台・若林区

ボランティア・第5日。訪ねて7度めとなる若林区でも、今日は暑いでしょう...と、E専務、製材



▲ 被災者の皆さんたち、率先して果物・野菜並べてくれた!(仙台・若林区)

所の中に、交わりや物資の配布場所を提供してくれました。G社長は、「また、来てくれたらうれしいな。来て下さいよ。みんな楽しみにしてるから...」と私たちを励ましてくれました。

今回は、果物野菜・日用品や服に加えて、「昨日、昨日と出会って作業した、前述の宮城野区のE復興農場からも、野菜を仕入れました。また、いつもサポートしてくれている明泉学園の保護者の皆

さんからの衣服も、若林区用に新たに確保して持ってきました。去年、50人あまりで、必死に泥かきをしたG社長の古い大きな家も、少し改築が進み、その様子が見られたこともうれしかったです（流された機材は、10億円あまりのことだったし、30名近くスタッフがいた会社も20名近く、解雇せざるをえず、大変な中です）。でも、今、少し元気づけて良かったです。

「このらのみんなは、キリストさんに基づいぶん、感謝してるんだ。うちは、商売してるから頼まなかつたけど、みんな家を直してもらったりね。チアの皆さん、こうして顔見せてくれて、また、いろいろと必要を考えて持つて来てくれたり、ボランティアしてくれたらね…本当に感謝してるんだ…」

夏期特別伝道チーム…宇都宮

5日目の午後、宇都宮に向かい、鬼怒川沿いのキャンプ地に泊められたキャンピングカーで1泊、いつものチルミニ・スタッフの皆さんらの夏期特別伝道チーム、60名あまりの皆さんに合流させてもらいました。夜の川で泳いだり、交わりの時を楽しんだり。翌日は、いよいよ、パンフレット配りを行いました。福音のパンフレットを多くの皆さんがにこやかに受け取ってくれ、とても感謝でした。中には、きれいな着物を着た女性が家から出てこられて、「私も聖

書、もらっていいですか。その道の者ですが…」と聖書とパンフレットをもらっていかれたり、「子どもの頃にもらったのを覚えています。また、もらいますね」と受け取っていかれる方もおられました。



▶ 伝道パンフレット、宅配できました！(7月28日 宇都宮)

テーマの達成！ 本質に目を向け、 心から仕える！

さらに、うれしかったことがあります。今回は8回目ということで、特別なテーマを持つての6日間でした。「形よりも本質を！」はチアのモットーです。ボランティアを通して、このモットーの通り、表面的ではなく本質で悔い改め、仕え、成長していこう！が、テーマでした。そのテーマを毎日皆で確認し合い、祈りつつ、見事、達成して帰ってこられたことが、とてもうれしかったです。

これまでの7回、それぞれ、すごい奇蹟の連続でした。ボランティアの仕事は、感謝と感動の中に、毎回、不思議なことの連続で、すごい展開だったと思います。ただし、後半、それも日常化していく中で、いくつか反省点が生じていました。ボランティア活動は立派に行っていたのですが、被災地の表の目立つところではなく、たとえば、バスの中とか、部屋に帰ってからとか。第7回の時（今年2月）には、宿に戻ってから3時間あまり、皆で話し合うこともありました。そのまま楽しく帰ってくる選択もありましたが、せっかく神さまが集めてくれたチームなので、課題をしっかりとらえ、この稀有な機会を成長の機会にできれば…という思いからです。良

い子になろうということではなく、裏表なく、本質、自分の心の内側を見て、悔い改めつつ、赦しをもらい、本来の目的を目標にして、神さまや人に心から仕えていこう、成長を期して、祈っていこうという願いのためです。

第7回の期間中、5〜6回、注意が続いた参加者の1人、Iさんは、リーダーチームで相談し、午前5時の新幹線に乗って、仙台から東京に帰されることもなりました。このことはみんなにとって辛い出来事です。それから5ヶ月経って、サポートスクールの保護者会がありました。その頃には、僕も含め、本人もご家族も、まわりの人々も良かった…と明確に思う状況に変えられていきました。親御さんからは、「最初はシヨックだったけど、そうしてもらって良かった。良い機会が与えられた」、本人も「友達依存症的なところが分かって、これじゃいけないと気づいた。良かったと思ってる」と話してくれたり、他の人々からも「すっきりした感じがあって、成長したと思う」ということとなりました。

3時間のミーティングでは、Iさんだけでなく、10数人、これはどうか…という点について、具体的に話し合いました。聖書に、「あからさまに責めるのは、ひそかに愛するのにまさる。憎む者がくちづけしてもてなすよりは、愛する者が傷つけるほうが真実である（箴言 27・5、6）」の思いから、そして、もちろん裁くためではなく、愛する

が故にです。無責任に、あるいは思慮なく、未熟な点を指摘するというわけではなく、神さまに知恵を与えられることを祈りつつです。また、何より、自分自身が悔い改め、赦しを神さまに求めつつです。

ゴールを見つめて

これまでの素晴らしいところは生かしつつ、上記のように、反省として学んだ体験もさらに生かし、直面し続け、神さまの赦しと恵みと聖霊の力をもらい続けていこう——。今回は、その集大成みたいなチームで帰ってこられればと願いました。形よりも本質、内側から、本質的なところから、神さまに目を向け、赦しを求め、そして立てあげてもらい、強い目的で進もう！という、テーマがありました。盲従ではなく、自分で納得するまで考えて、納得して進む！何か納得できないことがあれば、陰でなく、表で率直に話し合う。愛をベースに「罪を憎んで、人を憎まず！」という精神で。もともと全員、罪人なのだから「良い子」ではないし、また「良い子」になるのが目的ではない。悔い改めていく心の方向性、目に見えない本質を立てあげていこう！

6日間の日程の節目、節目を、9回まで続く、野球の試合にたとえ、「今日、とても良かった。思いがけない、大量得点。でも今はまだ、2回の表だよ。この調子で行こう！」「今日は6回の攻撃が

終わった。得点を重ねたよ。でも、油断せず、最初の目的を明確にして行こう！」「今、7回が終了。引き続き、勝ってるし、試合終了も見えてきた。その調子。ますます祈り、神さまを見続けて行こう！」…といった具合に。そして、参加者みんな、心に深く刻んでくれて、とてもよくがんばってくれました。そして、見事、圧倒的な勝利の中で、試合終了のサイレン！皆で全力を尽くして、励まし合って、願っていた本来の志しと姿勢を、6日間、貫くことができた！そんな達成感を共有

▼ 本質・目的にフォーカス！（仙台・宮城野区にて）



できる、深い恵みもありました。

これまでの7回のボランティアで、いろんな体験があり、神さまに教えられ、直面し、また、悔い改めて立ち上がっていくように導かれていきました。その意味では、今回、8回目の収穫は、これまでの7回のチームのお陰でもあります。いろいろな意味で、とても感謝で、貴重な6日間、第8回チア東北ボランティアでした。◇

被災者の 皆さんからの お便り



▲ 釜石・浜町の皆さんたち、親しい交わり、感謝です!

釜石市 Aさん

3月11日、釜石駅の近くのマイヤー（スーパー）に買い物に行っていました。レジが私の番になった時、立つていられないくらい激しい揺れがいつまでも続き、バスと大きな音を立てて停電しました。これはただ事でないと思い、揺れが収まるやいなや車に飛び乗り、浜町にスピードを出して向かいました。家に着くと主人がいてくれて、「良く帰ったな」

と言ってくれました。車を高台の方に移動した方がいいと言うので、車の移動も終わり、ホツとしていたら、「家が流れて来たぞ。早く逃げろ」と叫んでいる声が出て、山に向かつて走りました。足が前に出るのですが、おしりが重くてなかなか前に進みませんでした。

どうしてだろうか、そこへ腰のまがつた平内さんが来て、2人で山に向かいました。釜石湾が一望でき、浜町も見える場所を探して落ち着きました。海の方を見ると、1回目の津波が沖の方へどんどん向かって引いていました。その引き潮がつづいて割れて、湾江（船の入口）に一本の道ができたようになって見えました。そこを瓦礫等が一直線になって流れ、進んで行くのが見えました。

その時、十戒（映画）で海に道ができ、モーターたちが助かったシーンを思い出しました。ミッシェン系の学校に行っていました。津波の最中に、なぜか聖書のシーンを思い出しました。引き潮が湾江まで届かない内に2回目の大きな、かぶるような津波が湾江の向こうに見えたと思ったら、あつという間に白波を立てながら荒れくるうように浜町の家々を飲みこんで行きました。見ていた2人はワーワーと悲鳴をあげていました。

表通りにつながる3本の道は、家そのままの形で何軒も流れつき、車は30台以上重なりあつて、沢山の瓦礫ですっかりふさがりました。これからどう

なるのだろうかと思いました。あ……あ……あ……でした。

階段3段まで浸水した我が家は、ライフラインが全部ストップし、その晩からはとても寒く、車のヒーターをつけっぱなしで3日間、車の中で寝ました。地震から2日め、おにぎりが2人で1個、3日め、おにぎり2個、バナナ1本、消防の人たちが山道を背負って食べ物を運んでくれました。その後、少しずつ良くなって行きました。1ヶ月が過ぎた頃、散歩をしていたら、二本松丸（津波の時、沖に船を出した）のおじさんに会い、引き潮の時の不思議な現象を話したら、湾江の真ん中に巨大なうずが巻いて自分の船も何回も吸い込まれそうになったというお話を聞いて、今までどうしてだったんだらうと思っていたことが、解決しました。今思うと、何度も何度も大きな余震がわかったです。最近、浜町の皆様はすっかりあかぬけて、会うと、「これいいでしょ。キリストさまからもらったの」「どうても似合うよ」と言うのと、にっこり笑って行きます。

釜石市 Bさん

前略 釜石のB夫妻でございます。

何時も、我々の為に遠いところからわざわざお出掛け下さいまして沢山の衣類や食品を置いて、

それから陸前高田の方にも行かれるとお聞きしましたが、何というお心遣い、無心に感謝の言もございません。今年の冬は寒くて、それに雪も降りまして一歩も外出できないような時は、真心のセーター、パンツに身を包んでコタツに入っでは、皆様を思っております。大長くても大きくても、それだけ真心で大きくかばってくれてる気になります。ありがたいことでございます。田舎者には勿体ない立派な服も沢山ありますから、外出にもそれを着て出掛けています。被災のお蔭(?)で、買うこともできないような服をいただき、ありがとうございます。

皆様も御無理をなさらず、お体第一に、万が一、このような大きな災害に見舞われることがあったら、命第一とばかり逃げ場所を決めておかれ、いち早く避難されること、我々も痛切に感じております。

野菜、果物、菓子等も戴きまして、皆々大変な感謝でございます。

ありがとうございます。重ね重ねの御礼の言葉とさせていただきます。

草々

キリスト様へ

▼うれしい垂れ幕も、風船で空のかなたへ



釜石市 Cさん

突然のお便りで、さぞかし驚きの事でしょうね。7月24日にお別れして早、3週間も過ぎましたものですから……。

皆様方の常日頃の活動、私たちに對する物心両面からの支え、私たちにとってどんなにありがたく、励まされたことだったか。

「感謝の気持ち」そんな思いが、言葉ではなかなか言い表すことができなくて……。それでも、いつの日にか、どんなにささやかであっても、今、自分たちができることの「感謝の気持ち」として何か表したいもんだ、と。

そのようなことが、いつも皆様方がお帰りになっ

てから、周辺の仲間たちの会話になっておりまして…。

そして7月24日…場所はいつものところでしたが…。

実はその場所、その頃、いつもと違って、近年にない「高温多湿」だったため、雑草がぼうぼうと生い茂っていて(〇〇)…、自分たちで早い時間帯に草刈りをしてネ。

大漁旗、風船、おばあちゃんたち(と呼んで叱られるかな(汗)) 手作りの地方独特のお煮釜しめ料理、釜石市民歌を中心にしたBGM等を用意して。

寒かった2月から暖かくなった7月までの5ヶ月の後、明るく変化しているだろう、自分たちの「元気な姿」での皆様方との再会でした。参加者の皆さん、大変喜んでいましたよ。

しかもそんな時、全く偶然でしたが地元のテレビが取材に来ておられました。

私たちの町、過疎地(震災後の釜石市の人口は約37000人)の震災後のテレビ放送ですが、私たちの地域ではそれなりの人気があります。特に、被災に会わなかった地域にも「被災地域の頑張り」が伝えられているから。

しかも、皆様方と私たちの映像は、週末の7

月28日から8月3日まで、1日4回の同番組の、ウィークリーダイジェストで放映されたようでした。

町内会の方からもTVを見て、「あのようなことができて楽しかった」「良かった」との感激の声がたくさんございました。

そこで「論より証拠」とか「百聞は一見に如かず」とでも申しませうか、あまり目立っていないだろう場所で、チアの皆様方が「大粒の汗を流しながら、ひたむきな活動」を続けられている姿が収録されたものが、私の手に入りました。

私たちの手元だけに置くのはもったいない、多くの方が共有できた皆様方の頑張り。早速、皆様方のお手元に届け、お目にかけていと思っただ次第です。

これも私たちに与えられている1つの「行動」であり、そして励まし支えて下さった皆様方への「感謝の気持ち」なのかなアと勝手に思いながら。いつの日にか皆様方・私たちお互いの永い人生の中でお役に立てば良いなど。特に、これからの若い方々のためにも…と。

関係者の皆様方の、慈愛に満ちた活動が、今後ますます大きく展開されますように。



▲ おいしい! 感動し、再会願った、釜石の皆さんとの昼食会!

東日本大震災義捐金 受付口座

郵便振替
00190-3-35461 チア・につぼん事務局
銀行
三菱UFJ銀行赤羽駅前支店
普通 1446697
ホームスクーリング・ビジョン(株)

チア東北ボランティアの
詳しい情報、感想文等は
www.cheajapan.com へ、
どうぞ!